

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-177285

(43)公開日 平成7年(1995)7月14日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
H 04 N 1/00	106 B			
	108 P			
1/04	106 Z			

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平5-319862

(22)出願日 平成5年(1993)12月20日

(71)出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 竹澤 勝仁

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

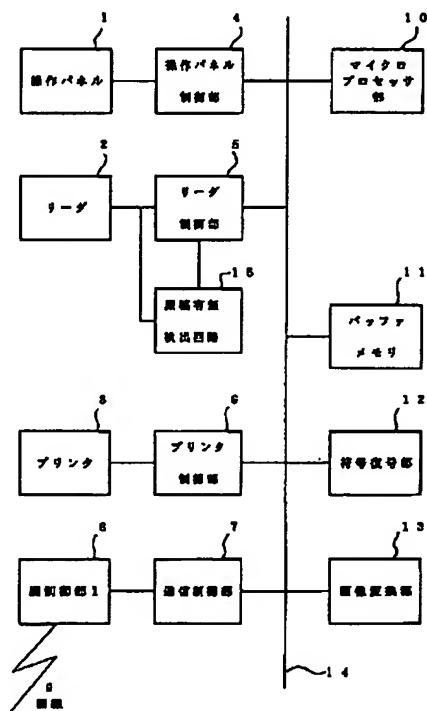
(74)代理人 弁理士 谷 義一 (外1名)

(54)【発明の名称】通信端末装置

(57)【要約】

【目的】自動ドキュメントフィーダ装置のある原稿読み取装置によって送信原稿を読み込ませる通信端末装置において、フィーダに原稿が無くなった時、あるいは紙詰まり等の障害が発生した後に、引き続原稿の有無及び引き続原稿の開始ページを入力可能にし大量の原稿を一度に送信する事。

【構成】送信原稿読み込みの動作が発生すると、リーダ2に原稿がセットされているか否かを、原稿有無検出回路15を用いて調べセットされれば、原稿の読み取りをリーダ制御部5の制御の元で、リーダ2によって実施する。原稿が全部正常に読み込まれた時は、次に読み込む原稿の有無を尋ねるメッセージを操作パネル1のLCDに表示し、指定を待つ。次の原稿が有りと操作パネルより指示したときは、今までの読み込み処理で読み込みが完了したページの後に、今度読み込む原稿が続くものとして次の原稿の読み込みを行う。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 構内自動交換機に収容された利用者から送信される情報を受信して解析する情報受信解析部と、前記情報受信解析部による解析結果に基づいてメールボックスを自動生成するメールボックス自動生成部と、それぞれメールボックス認識コードを有する複数のメールボックスを収納するメールボックス収納部と、前記メールボックス収納部内の前記各メールボックスにその所有者宛の音声メッセージを記憶させる音声メッセージ記憶制御部とを備えることを特徴とするポイスメール装置。

【請求項2】 前記情報受信解析部は前記利用者から音声メッセージ記憶要求およびこの音声メッセージの宛先内線番号を受信したときこの宛先内線番号から変換したメールボックス認識コードを前記メールボックス自動生成部に送り、前記メールボックス自動生成部は前記メールボックス収納部内に前記メールボックス認識コードと同じメールボックス認識コードを有するメールボックスが存在するか否かを検索して存在しないときには前記変換したメールボックス認識コードを有するメールボックスを生成して前記メールボックス収納部に収納することを特徴とする請求項1記載のポイスメール装置。

【請求項3】 前記利用者への着信呼の前記ポイスメール装置への不在転送を設定する転送設定情報を受信する転送情報受信部を備え、前記情報受信解析部は前記転送情報受信部から前記転送設定情報の受信通知を受けたとき前記利用者の内線番号から変換したメールボックス認識コードを前記メールボックス自動生成部に送り、前記メールボックス自動生成部は前記メールボックス収納部内に前記メールボックス認識コードと同じメールボックス認識コードを有するメールボックスが存在するか否かを検索して存在しないときには前記変換したメールボックス認識コードを有するメールボックスを生成して前記メールボックス収納部に収納することを特徴とする請求項1記載のポイスメール装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はポイスメール装置に関し、特に利用者がメールボックスを必要としたときにこの利用者ごとのメールボックスを自動生成するポイスメール装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来のポイスメール装置では、メールボックスの個数がポイスメール装置により制限されており、ポイスメール装置の保守運用者がこのメールボックス数の範囲内でメールボックスの所有者をあらかじめ定義していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この従来のポイスメール装置におけるメールボックスの定義方式では、メールボックスが実際に音声の記憶管理を必要としない場合で

もメールボックスの所有者がボイスメール装置内に定義されたままとなるので、ボイスメール装置内の限られた資源であるメールボックスが無駄になってしまうという問題点があった。

【0004】 また、ボイスメール装置の保守運用者により定義された特定のメールボックスの所有者以外は、ボイスメール装置を使用して音声メッセージを受け取ることができないという問題点があった。

【0005】 本発明の目的は、ボイスメール装置の利用者がメールボックスを必要としたときにのみ、ボイスメール装置内にその利用者を所有者とするメールボックスを自動生成するボイスメール装置を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明によれば、構内自動交換機に収容された利用者から送信される情報を受信して解析する情報受信解析部と、前記情報受信解析部による解析結果に基づいてメールボックスを自動生成するメールボックス自動生成部と、それぞれメールボックス認識コードを有する複数のメールボックスを収納するメールボックス収納部と、前記メールボックス収納部内の前記各メールボックスにその所有者宛の音声メッセージを記憶させる音声メッセージ記憶制御部とを備えることを特徴とするポイスメール装置が得られる。

【0007】 また、前記情報受信解析部は前記利用者から音声メッセージ記憶要求およびこの音声メッセージの宛先内線番号を受信したときこの宛先内線番号から変換したメールボックス認識コードを前記メールボックス自動生成部に送り、前記メールボックス自動生成部は前記メールボックス収納部内に前記メールボックス認識コードと同じメールボックス認識コードを有するメールボックスが存在するか否かを検索して存在しないときには前記変換したメールボックス認識コードを有するメールボックスを生成して前記メールボックス収納部に収納することを特徴とするポイスメール装置が得られる。

【0008】 さらに、前記利用者への着信呼の前記ポイスメール装置への不在転送を設定する転送設定情報を受信する転送情報受信部を備え、前記情報受信解析部は前記転送情報受信部から前記転送設定情報の受信通知を受けたとき前記利用者の内線番号から変換したメールボックス認識コードを前記メールボックス自動生成部に送り、前記メールボックス自動生成部は前記メールボックス収納部内に前記メールボックス認識コードと同じメールボックス認識コードを有するメールボックスが存在するか否かを検索して存在しないときには前記変換したメールボックス認識コードを有するメールボックスを生成して前記メールボックス収納部に収納することを特徴とするポイスメール装置が得られる。

【0009】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明す

3.

【0014】通信制御部7は、この通信端末装置と9の回線に接続されている他の通信装置との間の通信を制御するものである。8の網制御部は本通信端末装置と9の回線との接続を制御するものである。

【0015】マイクロプロセッサ部10は、この通信端末装置の全体の動作を制御するものであり、後述する図2及び図3に示すプログラムを記録したROMおよびこのプログラムを実行するプロセッサ、このプロセッサの作業領域を有するRAMを含んでいる。

【0016】バッファメモリ11は、送受信すべき画像情報を一時記憶するメモリであり、符号／復号部12は、リーダ2で読み取ったイメージデータを符号化して圧縮したり、回線9より送られてきた圧縮されたイメージデータを伸長するものである。画像変換部13は、通信先の受信能力に合わせて、送信するイメージデータの解像度・用紙サイズ等の変換を行うものである。バスライン14は、上記各要素を相互に接続するものである。

【0017】次に、図2のフローチャートを用いて本発明の第1の実施例の原稿読み取り動作を説明する。

【0018】まず、送信原稿読み込みの動作が発生すると、リーダ2に原稿がセットされているか否かを、原稿有無検出回路15を用いて調べる(S1)。

【0019】原稿がセットされていなければ、原稿をセットするようセットを促すメッセージを、操作パネル1のLCDに表示し、原稿がセットされるのを待つ(S2)。

【0020】S1で原稿がセットされていれば、周知の動作である原稿の読み取りをリーダ制御部5の制御の元で、リーダ2によって実施する。原稿読み取り中は、原稿読み取り中のメッセージ(図7)を現在読み込み中のページ数と共に操作パネル1のLCDに表示する(S3)。

【0021】S3で、リーダにセットされた原稿が全部正常に読み込まれたか否かを判断する(S4)。

【0022】原稿が正常に読み込まれなかった時は、原稿読み取りの異常処理を実行する(S5)。原稿が正常に読み込まれた時は、次に読み込む原稿の有無を尋ねるメッセージ(図5)をLCDに表示し、使用者の指定を待つ(S6)。

【0023】S6で、次の原稿が有りと使用者が操作パネルより指示したときは(S7)、今までの読み込み処理で読み込みが完了したページの後に、今度読み込む原稿が続くものとして次の原稿の読み込みを行う。S6で、次の原稿が無しと使用者が操作パネルより指示したときは、送信原稿の読み取りは終了する。

【0024】次に、図3のフローチャートを用いて本発明の第2の実施例の原稿読み取り動作を説明する。

【0025】S1からS6までは、前述の第1の実施例と同じなので省略する。

【0026】S6で、次の原稿が有りと使用者が操作パ

ネルより指示したときは(S7)、次に読み込む原稿の読み込み開始ページ入力メッセージ(図6)をLCDに表示する。開始ページのデフォルト値として、今まで読み込まれた原稿のページ数に1加えた値を表示しておく。使用者より入力された開始ページが前記デフォルト値より大きい値及び零の時は、入力エラーとして再入力してもらう。前記デフォルト値以下の時は、今までの読み込み処理で読み込みが完了したページの値及び、使用者より入力されたページより1減算した値との重複するページ部分の、読み込み済みのデータは消去する(S8)。

【0027】前記より残ったページの後に、今度読み込む原稿のデータが続くものとして次の原稿の読み込みを行う。S6で、次の原稿が無しと使用者が操作パネルより指示したときは、送信原稿の読み取りは終了する。

【0028】次に、図4のフローチャートを用いて本発明3の実施例の原稿読み取り動作を説明する。

【0029】S1からS5までは、前述の第1の実施例と同じなので省略する。

【0030】原稿が正常に読み込まれた時は、次に読み込む原稿の読み込み開始ページ入力メッセージ(図6)をLCDに表示する(S8)。使用者より操作パネル1より入力されたキーが読み取り動作終了のキーであれば、送信原稿の読み取りは終了する(S9)。それ以外の読み取り継続を指示するキーであれば、図3のS8と同じ処理となる。

【0031】図8は、本発明の第4・第5及び第6の実施例の通信端末装置の構成を示したブロック図である。

【0032】図8において、番号1～14迄は図1と同じなのでここでは省略する。16はリーダ2に障害が発生したか否かを検出する回路である。

【0033】次に、図9のフローチャートを用いて第4の実施例の原稿読み取り動作を説明する。リーダ障害検出回路16によってリーダに何かの障害が検出された時からの動作を以下に説明する。障害が検出されていない時は、前述の処理と同じなのでここでは省略する。

【0034】リーダ障害検出回路16によってリーダに何かの障害が検出された時、その障害の種類が、紙詰まり等の復旧可能な障害かあるいは装置故障等の復旧不可能な障害かを判定する(S11)。復帰不可能な障害のときは終了する。

【0035】障害が復旧可能な場合は、使用者に障害を取り除くよう促すメッセージ(図12：例として紙詰まり時のメッセージ)を操作パネル1のLCDに表示する(S12)。

【0036】リーダ障害検出回路16より障害が復旧した、あるいは一定時刻経過後にリーダの状態を検索し(S13)、障害がまだ継続していれば引き続き前記メッセージを表示する。

【0037】障害が復旧したら、次に読み込む原稿の有

5.

無を尋ねるメッセージ(図13)をLCDに表示し、使用者の指定を持つ(S14)。

【0038】S14で、次の原稿が有りと使用者が操作パネルより指示したときは(S15)、今までの読み込み処理で読み込みが正常に終了したページの後に、今度読み込む原稿が続くものとして次の原稿の読み込みを行う。以降の読み取り動作は前述の実施例の動作と同じである(S17・S18・S19)。S14で、次の原稿が無しと使用者が操作パネルより指示したときは、送信原稿の読み取りは終了し、正常に読み込み終了した部分が送信データとなる。

【0039】次に、図10のフローチャートを用いて第5の実施例の原稿読み取り動作を説明する。

【0040】S11からS15及びS17からS19までは、前述の第4の実施例と同じなので省略する。

【0041】S14で、次の原稿が有りと使用者が操作パネルより指示したときは(S15)、本発明5である、次に読み込む原稿の読み込み開始ページ入力メッセージ(図14)をLCDに表示する。開始ページのデフォルト値として、今まで障害が発生する前までに読み込まれた原稿のページ数に1加えた値を表示しておく。使用者より入力された開始ページが前記デフォルト値よりも大きい値及び零の時は、入力エラーとして再入力してもらう。前記デフォルト値以下の時は、今までの読み込み処理で読み込みが完了したページの値及び、使用者より入力されたページより1減算した値との重複するページ部分の、読み込み済みのデータは消去する(S16)。

【0042】前記より残ったページの後に、今度読み込む原稿のデータが続くものとして次の原稿の読み込みを行う。S15で、次の原稿が無しと使用者が操作パネルより指示したときは、送信原稿の読み取りは終了する。

【0043】次に、図11のフローチャートを用いて第6の実施例の原稿読み取り動作を説明する。

【0044】S11からS13及びS17からS19までは、前述の第4の実施例と同じなので省略する。

【0045】原稿が正常に読み込まれた時は、次に読み込む原稿の読み込み開始ページ入力メッセージ(図14)をLCDに表示する(S16)。使用者より操作パネル1より入力されたキーが読み取り動作終了のキーであれば、送信原稿の読み取りは終了する(S20)。それ以外の読み取り継続を指示するキーであれば、図9と同じ動作となる。

【0046】(他の実施例)以上説明した実施例では、プリンタ部あるいは画像変換部等を有する通信端末装置を説明したが、プリンタ部あるいは画像変換部は無くても構わない。

【0047】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、自動ドキュメントフィーダ装置のある原稿読取装置によ

6

って送信原稿を読み込ませる通信端末装置において、自動ドキュメントフィーダに原稿が無くなった時、あるいは紙詰まり等の障害が発生した後に、引き続く原稿の有無及び引き続く原稿の開始ページを入力可能にした事により、大量の原稿を一度に送信する事が可能となった。さらには、障害発生時にも使用者が原稿読み取り状態を見て、原稿を再読み込み出来る為、誤りの無い原稿読み取りが可能となった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1・2及び3の実施例を示すブロック図である。

【図2】本発明の第1の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図3】本発明の第2の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図4】本発明の第3の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図5】本発明の第1及び第2の実施例による次の読み取り原稿有無を入力するときに表示するメッセージ表示例を示す図である。

【図6】本発明の第2及び第3の実施例による次の読み取り原稿開始ページを入力するときに表示するメッセージ表示例を示す図である。

【図7】本発明の第1・2及び第3の実施例による原稿読み取り中に表示するメッセージ表示例を示す図である。

【図8】本発明の第4・5及び第6の実施例を示すブロック図である。

【図9】本発明の第4の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図10】本発明の第5の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図11】本発明の第6の実施例による原稿読取動作を示すフローチャートである。

【図12】本発明の第4・5及び第6の実施例による原稿読み取り中に紙詰まりが発生した事を表示するメッセージ表示例を示す図である。

【図13】本発明の第4及び第5の実施例による次の読み取り原稿有無を入力するときに表示するメッセージ表示例を示す図である。

【図14】本発明の第5及び第6の実施例による次の読み取り原稿開始ページを入力するときに表示するメッセージ表示例を示す図である。

【符号の説明】

1 操作パネル

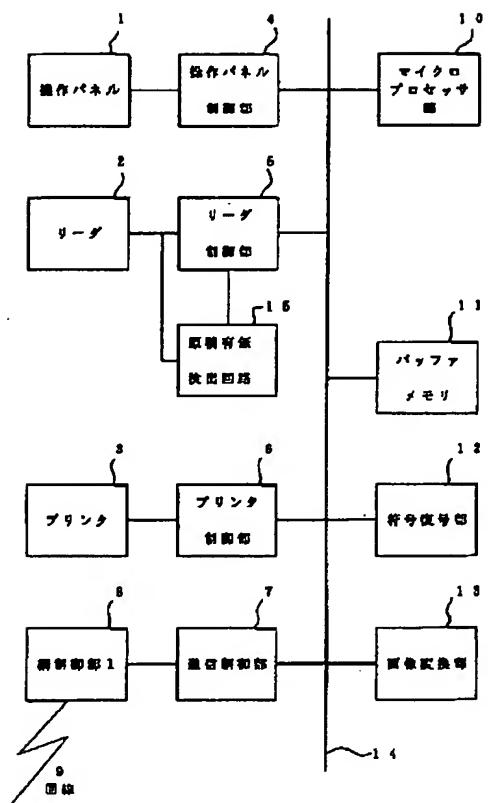
2 リーダ

5 リーダ制御部

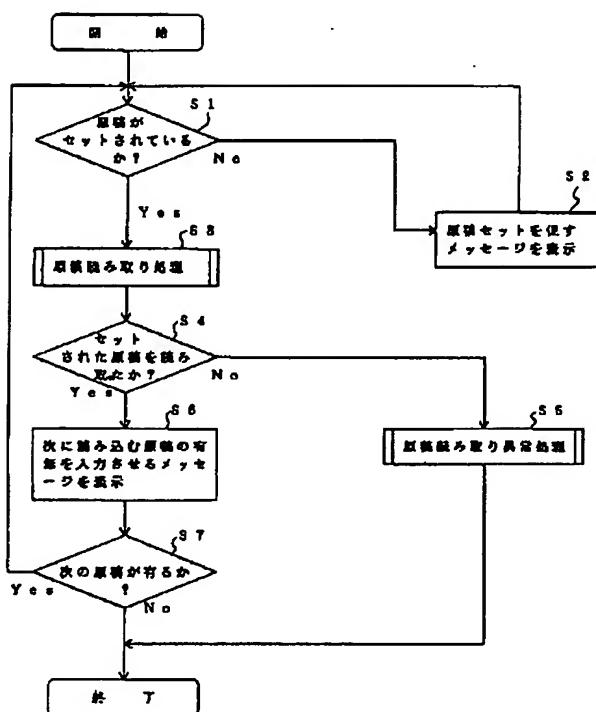
10 マイクロプロセッサ部

15 原稿有無検出回路

【図1】



【図2】



【図3】

【図5】

読み取り終了。読みの原稿が有りますか？  
有ればセットキーを押して下さい。

【図6】

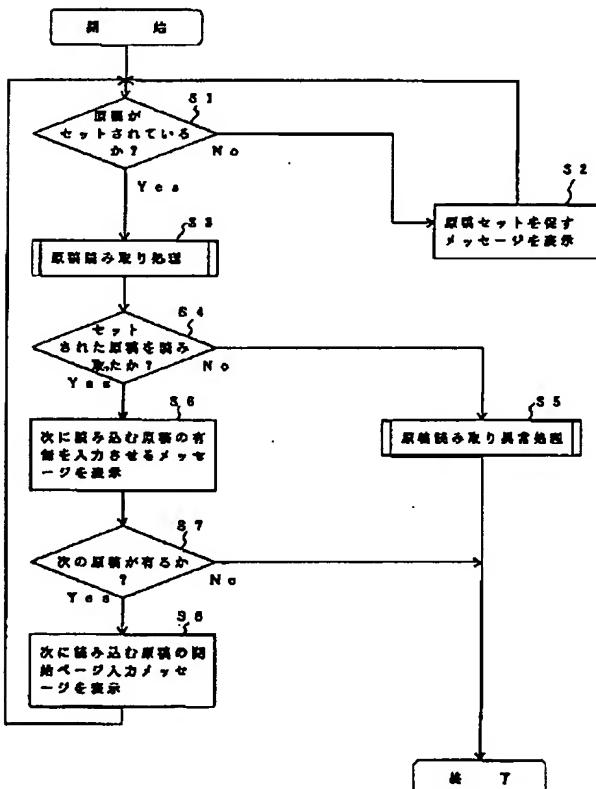
読みの原稿の開始ページを入力して下さい。  
頁=四〇〇

【図7】

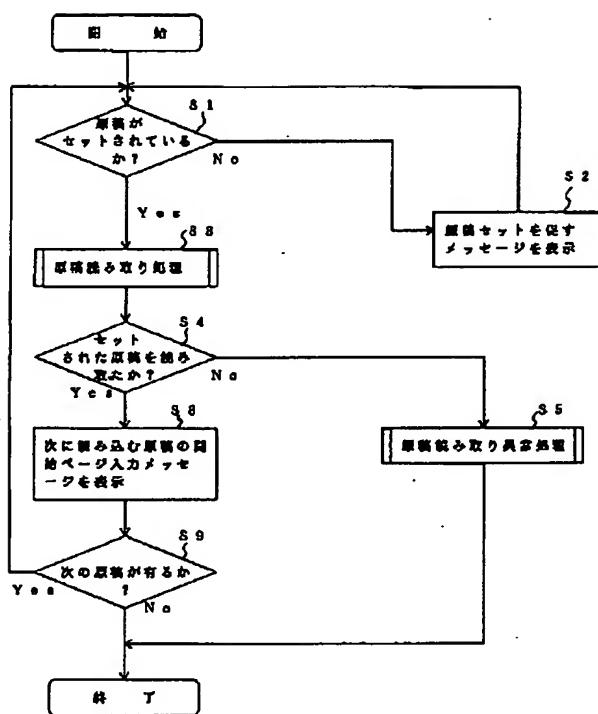
送信原稿読み取り中  
頁=四〇〇

【図12】

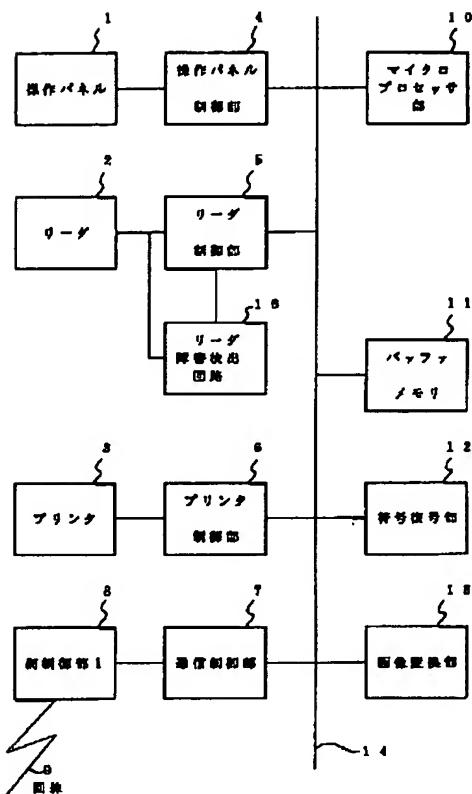
原稿が詰まっています。  
詰まった原稿を取り除いて下さい。



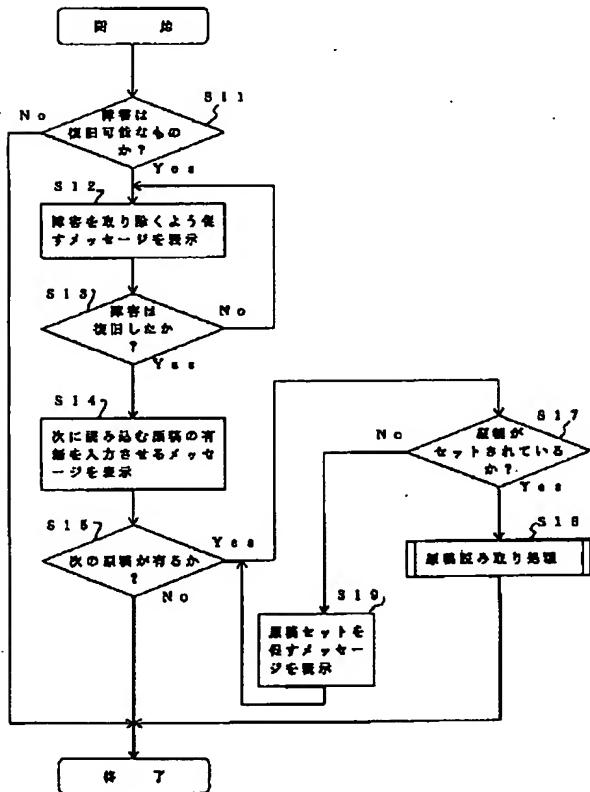
【図4】



【図8】



【図9】



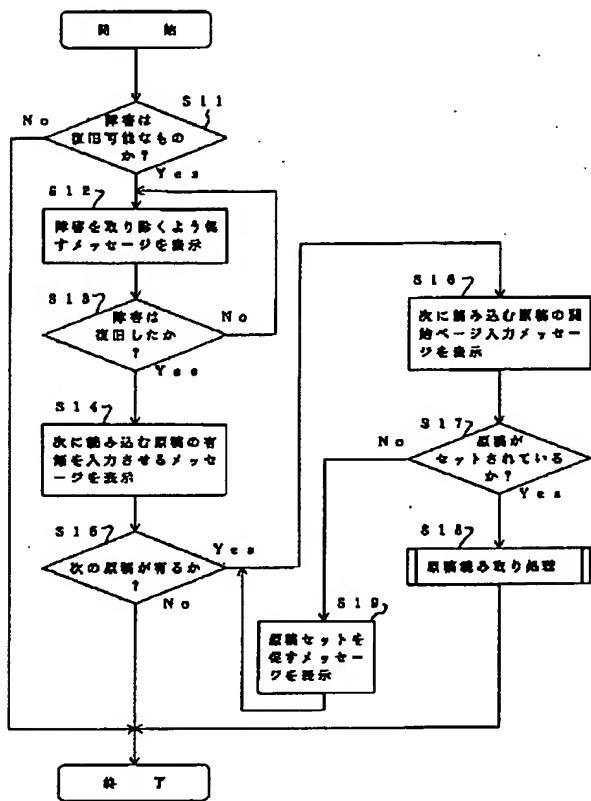
【図13】

読みの原稿が有りますか？  
有ればセットキーを押して下さい。

【図14】

読みの原稿の開始ページを入力して下さい。  
又→図4-1

【図10】



【図11】

